

## 3級問題 共通

## 【広告物の種類及び構造】

- 641 粘着シート貼り仕上げ広告板は、反射サインや透過サインに多く使われている。(24年度 真偽)
- 642 建築物の外壁に光を投影するサーチライトも屋外広告物になる。(24年度 真偽)
- 643 アドバルーンを利用して掲出する広告物は、屋外広告物ではない。(23年度 真偽)
- 644 サインの分類として、電気サインは、反射サインや透過サインに含まれるが、直射サインには含まれない。(23年度 真偽)
- 645 ビルボードは、屋外広告物に含まれる。(22年度 真偽)
- 646 建築物の外壁に光を投影することによって表示する広告物は屋外広告物である。(22年度 真偽)
- 647 大型の直射サインは、遠距離の受け手に見せる機能的なサインである。(21年度 真偽)
- 648 建築物の外壁に光を投影することによって表示する広告物は屋外広告物でない。(20年度 真偽)
- 649 スクリーンプロセス広告板では、焼付け加工仕上げができない。(20年度 真偽)
- 650 道路沿線に設置されている広告物は、交通広告である。(19年度 真偽)
- 651 大型の直射サインは、近距離の受け手に見せる機能的なサインである。(18年度 真偽)

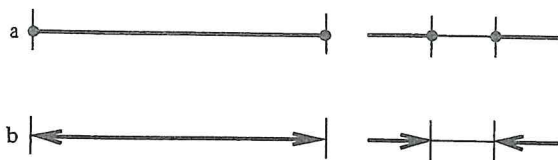
## 【広告物の素地の製作方法】

- 652 広告板の枠の組立てにおける中棧の間隔は、900mmピッチ以上でよい。(24年度 真偽)
- 653 広告物の骨組みにトラスを用いるのは、軽量化と変形防止のためである。(23年度 真偽)
- 654 研磨紙は、番号の数字が小さくなればなるほど、研磨粒子が細くなる。(23年度 真偽)
- 655 屋外広告物の鉄骨枠は、主にアングル(等辺山形鋼)の溶接によって組み立てる。(22年度 真偽)
- 656 フタル酸合成樹脂の下塗りには、油性調合ペイントが適している。(21年度 真偽)
- 657 広告板の枠の組立て間隔は、素材の規格サイズに合うようにするほうがよい。(20年度 真偽)
- 658 研磨紙は、番号の数字が小さくなればなるほど、研磨粒子が細くなる。(19年度 真偽)
- 659 広告物の骨組みにトラスを用いるのは、軽量化と変形防止のためである。(18年度 真偽)
- 660 木彫金文字は、一般に、金めっき加工仕上げである。(18年度 真偽)
- 661 亜鉛鉄板の厚さは、#31のものよりも#28のものの方が薄い。(18年度 真偽)

## 【広告物の製作図の作成方法】

- 662 鋼管の寸法表示で、 $\phi$ は半径を示す。(24年度 真偽)
- 663 設計図に書かれているL-40×40×3は、1辺40mm×1辺40mm×厚さ3mmのアングル(等辺山形鋼)の略号である。(23年度 真偽)

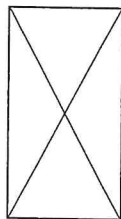
664 図面上に記入する寸法線の書き方として、a及びb共に正しい。(23年度 真偽)



665 製図に用いる文字の大きさについては、日本工業規格 (JIS) において、特に規定されていない。(22年度 真偽)

666 構造計算書は、設計図に含まれない。(22年度 真偽)

667 日本工業規格 (JIS) の建築製図通則によれば、下図は、木材の構造材を表す材料構造表示記号である。(21年度 真偽)



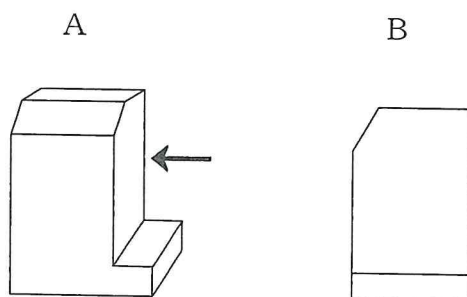
668 設計図では、物体の外形線と寸法線は同じ太さで書くのがよい。(21年度 真偽)

669 建築製図通則によれば、下図はかくれ線を表す。(20年度 真偽)



670 図面に書かれているRの記号は、円の直径を示している。(19年度 真偽)

671 B図は、Aを矢印の方向から見た図である。(19年度 真偽)



672 透視図では、直進する道路は遠く離れるほど道路幅は狭く描き、地面と空との境で一点に集まり、消点となる。(18年度 真偽)

673 鋼管の寸法表示で、 $\phi$ は半径を示す。(18年度 真偽)

### 【広告物の取り付け方法】

674 鉄骨ポールに広告物を取り付ける場合、広告物の自重は、考慮する必要はない。(24年度 真偽)

- 675 突き出し広告板の振れ止めや筋かいの取付け角度は、30度程度にするのが最適である。(24年度 真偽)
- 676 鉄筋コンクリート建築の壁面に大型の広告物を取り付ける場合、壁面には、事前にアンカーボルトを施工しておく。(23年度 真偽)
- 677 アンカー工法の一つに、「あと施工アンカー」がある。(22年度 真偽)
- 678 広告物の取り付け現場の周囲をネットやシートで覆うことを、養生という。(21年度 真偽)
- 679 長尺や大型の広告幕を取り付ける場合は、適切な風対策を講じなければならない。(21年度 真偽)
- 680 アクリル板を使用した広告物を屋外に設置するとき、伸縮に対応するためにゆるみなくしっかりと留め付けを行うと、割れが防げる。(20年度 真偽)
- 681 ALC(軽量発泡コンクリート)仕上げの壁面に重量広告物を取り付ける場合、アンカーボルトは壁面が仕上がる前に、構造物に取り付けたほうがよい。(20年度 真偽)
- 682 スチールポールに広告物を取り付ける場合は、広告物自体の重さを考慮する必要はない。(18年度 真偽)

### 【広告物の安全に関する力学の基礎】

- 683 自立式の広告物に地震力が作用した時、軟弱地盤よりも、強固な地盤の方に大きな地震力が加わる。(23年度 真偽)

### 【材 料】

- 684 同じ明るさの場合、LED照明の消費電力は、蛍光灯より少ない。(24年度 真偽)
- 685 蛍光灯の寿命は、点灯回数に影響される。(24年度 真偽)
- 686 粘着シートは、耐候性を考慮しているものと、考慮していないものがあるので、使用上注意しなければならない。(23年度 真偽)
- 687 フタル酸合成樹脂塗料の希釈材には、塗料用シンナーがある。(23年度 真偽)
- 688 塩化ビニールの粘着シートを廃棄するときは、可燃物として処分する。(23年度 真偽)
- 689 木材の切り抜き文字の素材には、ケヤキがよい。(22年度 真偽)
- 690 突出し広告物の板面にアクリルを使用する場合、伸縮を見込んで留め付けを行う必要がある。(22年度 真偽)
- 691 アクリル板の湿度による長さの変化は、温度変化による場合ほどすぐには現われない。(22年度 真偽)
- 692 セラックニスの希釈剤(うすめ液)は、アルコールである。(22年度 真偽)
- 693 塗料用シンナーは、ラッカーシンナーよりも引火しやすい。(22年度 真偽)
- 694 広告面に多用されているアルミ複合板は、アルミの厚さが0.5mm程度の薄板で、樹脂低発泡材を芯に挟んだ3重構造の素材である。(21年度 真偽)
- 695 ラッカーエナメルは、ローラ塗装に適している。(20年度 真偽)
- 696 蛍光灯の寿命は、点灯回数に影響される。(20年度 真偽)
- 697 乾燥度が高い場合における木材は、狂いやそりの危険性は高い。(20年度 真偽)
- 698 広い面積をラッカーエナメル塗装する場合は、ローラ塗装よりも吹き付け塗装で行うほうがよい。(19年度 真偽)
- 699 FRP(強化プラスチック)は、屋外広告物の素材としても、使用される。(19年度 真偽)
- 700 塩化ビニールの粘着シートを廃棄するときは、可燃物として処理する。(19年度 真偽)

701 広告板に使用する酢酸ビニル系エマルジョン塗料は、乾燥後であっても水に濡れると溶ける。(19年度 真偽)

702 粘着シートの上に、ラッカーエナメルで文字を書くと美しく仕上がる。(18年度 真偽)

### 【機械器工具】

703 カuttingマシンでは、粘着シートを重ね切りするには適していない。(21年度 真偽)

### 【コミュニケーションとデザイン】

704 歩行者が目を動かしている範囲は、およそ水平20度である。(24年度 真偽)

705 メッセージの伝達には、ことば、身振り、文字、絵など様々なものがある。(23年度 真偽)

706 コミュニケーションは、視覚・聴覚・その他の五感に訴える各種のものを媒介とする。(22年度 真偽)

707 広告美術において、コミュニケーションは、記号(シンボル・シグナル)による情報交換を目的としている。(19年度 真偽)

### 【デザインの基礎】

708 ピクトサインとは、障害者のために点字を用いたサインのことをいう。(24年度 真偽)

709 錯視において、垂直方向の線は、同じ長さの水平方向の線より長く見える。(24年度 真偽)

710 デザインは、技術・生産・消費面からの要求を検討・調整する総合的造型計画である。(23年度 真偽)

711 平行でない2本の直線に挟まれた、大きさの等しい2つの円は、線の間隔の狭いところにあるほうが小さく見える。(23年度 真偽)

712 ピクトグラムは、「視覚言語」のひとつの展開として考えられる「絵文字」のことである。(23年度 真偽)

713 デザインとは、あらゆるものを制作するに当たり、その材質、機能、技術及び美的造形性などの諸要素と、生産・消費からの各要素を検討する総合的造型計画である。(22年度 真偽)

714 錯視において、垂直方向の線は、同じ長さの水平方向の線より長く見える。(21年度 真偽)

715 広告物に使用される文字の大きさの基準は、有効な視距離との関係によって決めるとよい。(21年度 真偽)

716 屋外表示用や見出し用などに使用する文字を、ディスプレイタイプという。(20年度 真偽)

717 本や雑誌の本文に使用される書体を、ボディタイプという。(18年度 真偽)

718 囟は、明朝体エレメントの基本的な形を表している。(18年度 真偽)

囟

## 【広告デザイン】

- 719 広告物のデザインは、視認性や誘目性はあまり重視されない。(24年度 真偽)
- 720 屋外表示用や見出し用などに使用する文字を、ディスプレイタイプという。(24年度 真偽)
- 721 サイン文字は、画線を太くするほど可読性は高くなる。(24年度 真偽)
- 722 ローマ字「S」のレタリングでは上部を下部より少し小さくすると安定する。(23年度 真偽)
- 723 ピクトグラムは、抽象的な内容や複雑な意味内容を表現するのに適している。(22年度 真偽)
- 724 B1判の大きさは、728cm×103cmである。(21年度 真偽)
- 725 屋外広告におけるメッセージは、文字だけで伝達される。(20年度 真偽)
- 726 ローマ字のSのレタリングでは、下部を上部より少し小さくするとバランスがよい。(20年度 真偽)
- 727 空港、鉄道、駅などの公共施設の案内・誘導サインは、入口に緑色、出口に黄色のシンボルカラーを使用しているところが多い。(19年度 真偽)
- 728 広告物に使用される文字の大きさの基準は、有効な視距離との関係によって決めるとよい。(19年度 真偽)
- 729 ロゴタイプは、場所や色彩によって、太さを微妙に変えて使われる。(18年度 真偽)

## 【色 彩】

- 730 ウルトラマリンブルーは、群青色と呼ばれている。(24年度 真偽)
- 731 補色とは、反対色のことである。(24年度 真偽)
- 732 光を最もよく吸収する色は、赤色である。(23年度 真偽)
- 733 原色と無彩色の間の色は、中性色といわれる。(23年度 真偽)
- 734 進出とか後退の視覚現象は、色彩のもつ特性ではない。(22年度 真偽)
- 735 色光は、波長の短い順に並べると、青紫、青、青緑、緑、黄、橙、赤となる。(22年度 真偽)
- 736 信号灯の赤・黄・青(青緑)の色光は、世界共通の決まりではない。(22年度 真偽)
- 737 黄色は、青よりも光を吸収する。(21年度 真偽)
- 738 光の混色は、減法混色とよばれる。(21年度 真偽)
- 739 原色と無彩色の間の色は、中性色といわれる。(20年度 真偽)
- 740 青い物体は、太陽の七色の光のうち吸収する色が青である。(20年度 真偽)
- 741 一般にサインの文字の可読性は、バックにその補色を使うことで高められる。(20年度 真偽)

## 【美観風致】

- 742 豊かな自然環境に設置する屋外広告物は、できるだけ目立つように彩度が高い色彩でデザインするとよい。(24年度 真偽)
- 743 すべての屋外広告物には、景観に沿った公共性という観点が付加されている。(24年度 真偽)
- 744 都市の景観は、建築物、道路、広告物などの人工的要素によってのみ創り出される。(23年度 真偽)
- 745 良好な景観を形成し、風致を維持することは屋外広告物法の目的の一つである。(22年度 真偽)

## 【関係法規】

- 746 条例で屋外広告物の表示又は掲出物件の設置ができない地域では、例外なく屋外広告物の表示が禁止されている。(24年度 真偽)
- 747 建築物の上屋(屋根)のある回廊の柱、壁等に貼付された広告物は屋外広告物ではない。(24年度 真偽)
- 748 屋外広告物条例に違反している一定の広告物について、一定の要件を満たせば、知事自ら除却できる。(23年度 真偽)
- 749 同一自治体であっても、景観上、広告物の規制を厳しくする地域がある。(23年度 真偽)
- 750 屋外広告物の色彩やデザインは、条例で禁止されたり制限されたりすることがある。(22年度 真偽)
- 751 公共の地下歩道に表示された広告物は、屋外広告物である。(22年度 真偽)
- 752 屋外広告物関係法令によれば、自治体の条例に明らかに違反した表示で、管理されず放置されている広告物は、都道府県知事が公告をしないで除去することができる。(21年度 真偽)
- 753 景観法によれば、屋外広告物の掲出が禁止される地域もある。(21年度 真偽)
- 754 条例で屋外広告物の表示又は掲出物件の設置ができない地域では、例外なく屋外広告物の表示が禁止されている。(20年度 真偽)
- 755 公共の地下歩道に表示された広告物は、屋外広告物ではない。(19年度 真偽)
- 756 簡易除却とは、屋外広告物条例に違反している一定の広告物について、一定の要件を満たせば、知事自ら除却できることである。(19年度 真偽)
- 757 労働安全衛生関係法令によると、作業主任者は、都道府県労働局長の免許を受けた者又は都道府県労働局長若しくは都道府県労働局長の指定する者が行う技能講習を修了した者のうちから選任される。(19年度 真偽)
- 758 労働安全衛生関係法令によれば、労働災害防止等に関する技能講習は、定められた区分ごとに、学科講習又は実技講習によって行われる。(19年度 真偽)

## 【安全衛生】

- 759 労働安全衛生法は、職場における労働者の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進することを目的としている。(24年度 真偽)
- 760 アーク溶接には、放射される光線が目を与える影響は大きいですが、皮膚など他の体の部位に対する影響はない。(24年度 真偽)
- 761 労働安全衛生法関係法令によれば、事業所内で行うすべての作業には、必ず作業主任者を選任し、労働者の指揮を行わせなければならない。(23年度 真偽)
- 762 労働安全衛生法関係法令によれば、健康の保持増進のため、事業者は労働者に対して健康相談のための医師を常駐させなければならない。(22年度 真偽)
- 763 労働安全衛生法関係法令によれば、事業者は、作業のため物体が飛来することにより労働者に危険を及ぼすおそれのあるときは、飛来防止の設備を設け、労働者に防護具を使用させる等、当該危険を防止するための措置を講じなければならない。(22年度 真偽)
- 764 屋内作業場内の環境は、作業の内容により決定されるため、快適な職場環境の形成を図るために事業者ができることはない。(21年度 真偽)
- 765 事業所内で行うすべての作業には、必ず作業主任者を選任し、労働者の指揮を行わせなければならない。(20年度 真偽)
- 766 物体が飛来するおそれのあるときには、危険防止のため作業者に保護帽を着用させる。(20年度

真偽)

- 767 有機溶剤による軽度の中毒者の応急措置としては、風通しのよい所に寝かせて、衣服をゆるめてやるのがよい。(18年度 真偽)
- 768 労働安全衛生関係法令によれば、事業者は、快適な職場環境の実現と労働条件の改善を通じて職場における労働者の安全と健康を確保するようにしなければならない。(18年度 真偽)

### 3級問題 シート

#### 【専門仕上げ法】

- 769 粘着シート加工で水を使用する場合は、少量の中性洗剤を入れるほうがよい。(24年度 真偽)
- 770 粘着シート加工に使用するスキージは、幅が各種あるので用途に応じて選ぶとよい。(24年度 真偽)
- 771 粘着シートの切り抜き方法としては、合板などで挟み、電動糸のこで切断する方法がある。(24年度 真偽)
- 772 水を使わない粘着シートの貼り込みでは、スキージーを布巻きして使用すると、シート表面に傷が付きにくくなる。(24年度 真偽)
- 773 粘着シートや被着体に霧吹きで水をつける場合、霧の粒子は大きいほうがよい。(24年度 真偽)
- 774 塩化ビニルの粘着シートは、同じ材質の塩化ビニル板に貼ると剥がれやすい。(24年度 真偽)
- 775 屋外用粘着シートの規格は、日本工業規格(JIS)で規定されている。(23年度 真偽)
- 776 コンピュータ・カッティングマシンには、刃先を取り換えることによって、原寸原稿を書くことができるものがある。(23年度 真偽)
- 777 コンピュータ・カッティングマシンでは、粘着シートを重ねてカットすることができない。(23年度 真偽)
- 778 粘着シート加工で、透過サインの仕上がりを確認する場合、ライトテーブルは、機能的な作業台である。(23年度 真偽)
- 779 シャッターなどの凹凸のある面に粘着シート文字を貼る場合は、変形を考慮する必要がある。(23年度 真偽)
- 780 劣化した塗装面に粘着シートを貼る場合は、塗料をよくはがしてから貼るようにする。(23年度 真偽)
- 781 水を使わない粘着シートの貼り込みでは、スキージーを布巻きして使用すると、滑りにくくシート表面に傷が付きやすくなる。(22年度 真偽)
- 782 粘着シート用コンピュータ・カッティングマシンは、レーザー光線で切り抜く。(22年度 真偽)
- 783 水を使用する粘着シートの貼り込みでは、中性洗剤の量はできるだけ多い方がよい。(22年度 真偽)
- 784 カッティングマシンは、粘着シート幅を超える大判なものも分割してカットできる。(22年度 真偽)
- 785 直射日光の当たる網入りガラスに大きな面の粘着シートを貼ると、ガラスが割れることがある。(22年度 真偽)
- 786 広告板面の下地材(紙、プラスチック、鋼板、塗装面等)によって、転着シートの粘着度の強弱を選択する。(22年度 真偽)
- 787 広告板の粘着シート貼り仕上げの場合、下地面処理の良否は、一般に、ペイント仕上げよりも仕上げ面にあまり影響を与えない。(21年度 真偽)

- 788 粘着シート文字は、紙には貼り加工できない。(21年度 真偽)
- 789 塩化ビニルの粘着シートは、塩化ビニル板に貼ると、はがれやすい。(21年度 真偽)
- 790 カuttingマシンは、粘着シートを重ねてカットすることができる。(20年度 真偽)
- 791 寒冷地において粘着シートを剥がすときは、ドライヤーで温めると剥がしやすい。(20年度 真偽)
- 792 粘着シートに原稿を貼る場合、ペーパーセメントは、できるだけ均一に塗り、乾かないうちにすばやく貼るのがよい。(20年度 真偽)
- 793 屋外用粘着シートの規格は、日本工業規格(JIS)で規定されている。(19年度 真偽)
- 794 粘着シートの接着強度が最も高い被着体は、ガラス板である。(19年度 真偽)
- 795 粘着シート貼り込み作業をする場合、熱や湿気のこもりやすいところは避ける。(19年度 真偽)
- 796 ロゴマークなどの図形は、スキャナでコンピュータに取り込めば、アウトライン処理をしなくても、Cuttingプロッタ出力ができる。(18年度 真偽)
- 797 粘着シートの手切り加工では、角ゴシックよりも丸ゴシックのほうが加工しやすい。(18年度 真偽)
- 798 コンピュータ制御によるCuttingは、ロゴタイプやシンボルマークを多様に展開するのに適している。(18年度 真偽)

#### 【専門以外の仕上げ法】

- 799 エマルジョン塗料の乾燥した塗膜は、再び水に溶ける性質がある。(24年度 真偽)
- 800 ラッカー系塗料に使用した刷毛は、塗料シンナーで洗うとよい。(23年度 真偽)
- 801 合成樹脂調合ペイントの塗面に、粘着シートを貼ってCuttingすると、カス取りのとき塗面が剥がれることがある。(22年度 真偽)
- 802 なぜ刷毛は、粘着シートの貼り込み用工具である。(21年度 真偽)
- 803 パイプヒーターでプラスチック板を折り曲げ加工する場合、曲げ終わったらすぐに水に浸して冷やすとよい。(21年度 真偽)



- 599 ×
- 600 ○
- 601 ○
- 602 ×
- 603 ○
- 604 ×
- 605 ○
- 606 ×
- 607 ×
- 608 ○
- 609 ハ
- 610 ニ
- 611 □
- 612 □
- 613 □
- 614 ハ
- 615 □
- 616 ニ
- 617 ハ
- 618 ニ 細かく切れ目を入れると作業しにくい。
- 619 ニ
- 620 □
- 621 イ
- 622 イ
- 623 ハ
- 624 ニ
- 625 ニ
- 626 ニ
- 627 □
- 628 □
- 629 ハ
- 630 □
- 631 ニ
- 632 ニ
- 633 ハ

【専門以外の仕上げ法】

- 634 × 熱風溶接法で可能。
- 635 ○

- 636 ×
- 637 ×
- 638 ハ
- 639 イ テトロンは主にスクリーン印刷に使用される繊維。
- 640 ニ

3級共通

【広告物の種類及び構造】

- 641 ○
- 642 ×
- 643 ×
- 644 ×
- 645 ○
- 646 ○
- 647 ○
- 648 ×
- 649 ×
- 650 × 交通広告はバス・電車等の交通機関の乗客に向けて表示される広告物のこと。
- 651 ×

【広告物の素地の製作方法】

- 652 ×
- 653 ○
- 654 ×
- 655 ○
- 656 ×
- 657 ○
- 658 ×
- 659 ○ トラスは三角形を単位として組まれた部材の構造形式で、外力に対する耐久性が高く、形が崩れにくい特性がある。
- 660 ×
- 661 ×

【広告物の製作図の作成方法】

- 662 ×
- 663 ○
- 664 ○
- 665 ×

- 666 ○
- 667 ○
- 668 ×
- 669 ○
- 670 × Rは半径を表す。
- 671 ○
- 672 ○
- 673 ×

**【広告物の取り付け方法】**

- 674 ×
- 675 ×
- 676 ○
- 677 ○
- 678 ○
- 679 ○
- 680 ×
- 681 ○
- 682 ×

**【広告物の安全に関する力学の基礎】**

- 683 ×

**【材料】**

- 684 ○
- 685 ○
- 686 ○
- 687 ○
- 688 ×
- 689 ×
- 690 ○
- 691 ○
- 692 ○
- 693 ×
- 694 ×
- 695 ×
- 696 ○
- 697 ×
- 698 ○
- 699 ○
- 700 ×
- 701 ×

- 702 ×

**【機械器工具】**

- 703 ○

**【コミュニケーションとデザイン】**

- 704 ○
- 705 ○
- 706 ○
- 707 ○

**【デザインの基礎】**

- 708 ×
- 709 ○
- 710 ○
- 711 ×
- 712 ○
- 713 ○
- 714 ○
- 715 ○
- 716 ○
- 717 ○
- 718 ○

**【広告デザイン】**

- 719 ×
- 720 ○
- 721 × 太すぎると文字のふところ(文字の画と画が構成している内側の空間)部分がつぶれて、読みにくくなる。
- 722 ○
- 723 ×
- 724 ×
- 725 ×
- 726 × 上部を小さくする
- 727 ○
- 728 ○
- 729 ×

**【色彩】**

- 730 ○
- 731 ○
- 732 × 光を最もよく吸収するのは黒色。

- 733 × 中間色といわれる。
- 734 ×
- 735 ○
- 736 ×
- 737 ×
- 738 ×
- 739 × 中性色は、寒色と暖色の間の色彩のこと
- 740 ×
- 741 ×

**【美観風致】**

- 742 ×
- 743 ○
- 744 × 樹木などの自然的要素も含まれる。
- 745 ○

**【関係法規】**

- 746 ×
- 747 ×
- 748 ○
- 749 ○
- 750 ○
- 751 ○
- 752 ○
- 753 ○
- 754 ×
- 755 ×
- 756 ○
- 757 ○
- 758 ○

**【安全衛生】**

- 759 ○
- 760 ×
- 761 ×
- 762 × 医師の常駐は義務付けられていない。
- 763 ○
- 764 ×
- 765 ×
- 766 ○

- 767 ○
- 768 ○

**3級シート**

**【専門仕上げ法】**

- 769 ○
- 770 ○
- 771 ○
- 772 ○
- 773 ×
- 774 × 材質が同じ場合は剥がれにくくなる。
- 775 × メーカーの独自規格である。
- 776 ○ ペンプロッタとして使用できる場合がある。
- 777 ○
- 778 ○
- 779 ○
- 780 ○
- 781 ×
- 782 ×
- 783 ×
- 784 ○
- 785 ○
- 786 ○
- 787 ×
- 788 ×
- 789 ×
- 790 ×
- 791 ○
- 792 ×
- 793 ×
- 794 ×
- 795 ○
- 796 ×
- 797 ×
- 798 ○

**【専門以外の仕上げ法】**

- 799 × 乾燥した塗膜は、水に溶けない。
- 800 × ラッカーシンナーを使用する。

801 ○  
802 ×  
803 ×